

【ご注文承ります】

李慈銘日記 1-14

／浙江文獻集成

〔清〕李慈銘 著 盧敦基 主編／浙江大学出版社／2024 年 6 月／精装／ISBN 9787308230643
税込 101,200 円 (504329)

李慈銘 (1830-1894) は清朝後期の文人・官僚。気性の激しい人物で出世は遅かったが、經学や文学の分野で優れた業績を残した。なかでも、40 年間にわたって書き続けた『越縵堂日記 (李慈銘日記)』は、同時代史の出来事を詳細に記録しており、翁同龢『翁同龢日記』、王闈運『湘綺樓日記』、葉昌熾『督廬日記』と並んで「清末四大日記」と称されている。また、広い学識に裏打ちされた学術批評、読書札記などを数多く含んでおり、清代後期の政治史だけでなく、当時の学術・文学状況を研究するうえでも、高い参照価値を有する資料である。

『越縵堂日記』は、民国 9 年 (1920) にその一部が、李慈銘と交友のあった蔡元培によって刊行されたのを皮切りに、1980 年代までいく度かに分けて影印版が刊行されてきたが、整理本はこれまで未出版であった。本書は、2004 年に広陵書社より刊行された『越縵堂日記』を底本に、全編に校点をほどこした整理校点本。縦組繁体字。

附録として、他の文集に未収録の「乾隆紹興府志校記」「桃花聖解齋樂府」等の文章や、1920 年刊行版に付されていた「印行越縵堂日記緣起」など、9 つの文献を収録する。なお、「詩文索引」「札記索引」「人名索引」の索引 3 種については、巻末の QR コードよりインターネットを通して利用するかたちとなっている。



ご注文・お問い合わせ